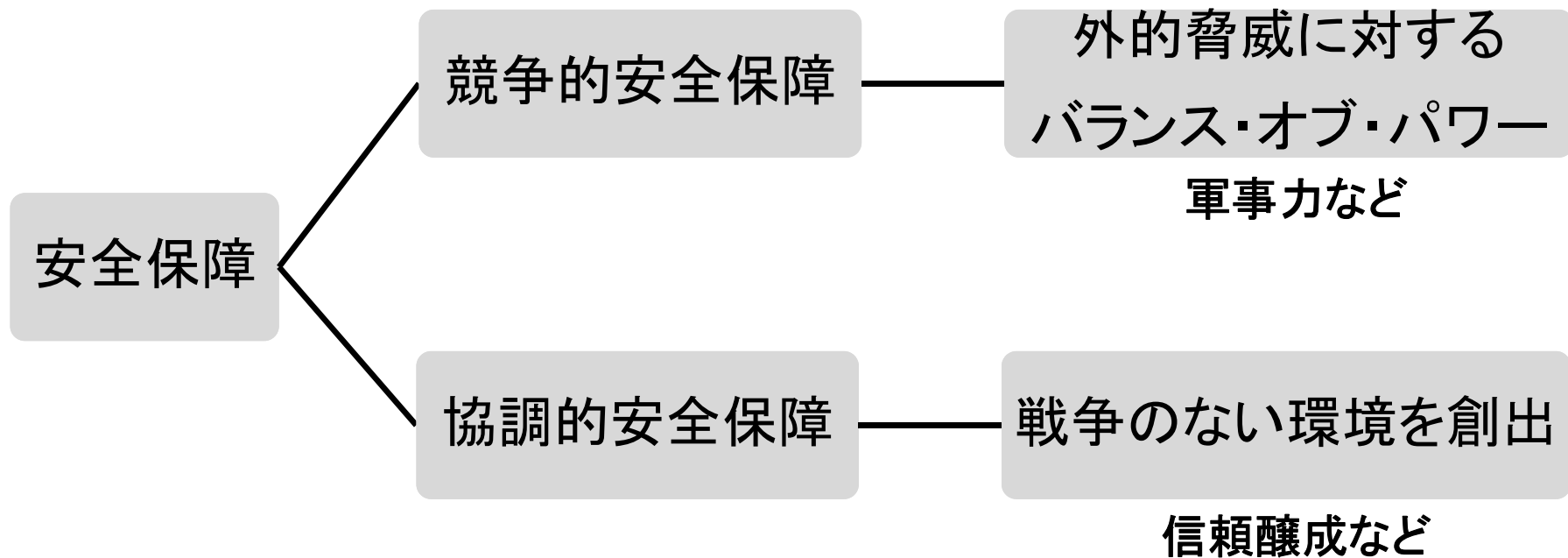


# 国際政治学

## 講義12 抑止と安全保障

早稲田大学  
政治経済学術院  
栗崎周平

# 安全保障政策



# 国際政治学

講義12-1

抑止と安全保障  
～抑止の定義と類型～

早稲田大学

政治経済学術院

栗崎周平

# 「基軸通貨」としての軍事力

	動機	
	現状維持	現状変更
軍事力	<b>防衛</b> ( <i>Defense</i> )	<b>攻撃</b> ( <i>Offense</i> )
	<b>抑止</b> ( <i>Deterrence</i> )	<b>強要</b> ( <i>Compellence</i> )

# 軍事力行使の一類型としての「抑止」

## 抑止の定義

相手国が望ましくない行動をとらないように予防するための軍事力の運用

- 現状を維持するための軍事力運用
- 相手国を懲罰するための軍事力行使の威嚇

# 軍事力行使の一類型としての「抑止」

## 抑止の定義

相手国が望ましくない行動をとらないように予防するための軍事力の運用

- 現状を維持するための軍事力運用
- 相手国を懲罰するための軍事力行使の威嚇

## 基本的手順

- (1) 要求を提示(現状維持など)
- (2) 帰結を説明
- (3) 相手の出方を待つ
- (4) 要求が蹴られたら懲罰実行

# 軍事力行使の一類型としての「抑止」

## 抑止の定義

相手国が望ましくない行動をとらないように予防するための軍事力の運用

- 現状を維持するための軍事力運用
- 相手国を懲罰するための軍事力行使の威嚇

## 基本的手順

- (1) 要求を提示(現状維持など)
- (2) 帰結を説明 ⇐ 威嚇
- (3) 相手の出方を待つ
- (4) 要求が蹴られたら懲罰実行 ⇐ この時点で抑止は既に失敗

抑止の成功 = 懲罰実行は「反事実」 = 不実行が前提

# 軍事力行使の一類型としての「強要」

## 強要の定義

相手国の行動を変更させるための軍事力の運用

- 望ましくない行動を中止させる
- 自国にとって望ましい行動を相手国に取らせる

## 基本的手順

- (1) 要求を提示(現状変更など)
- (2) 帰結を説明 ⇐ 威嚇
- (3) 相手の出方を待つ
- (4) 要求が蹴られたら懲罰実行 ⇐ この時点で「強要」は失敗



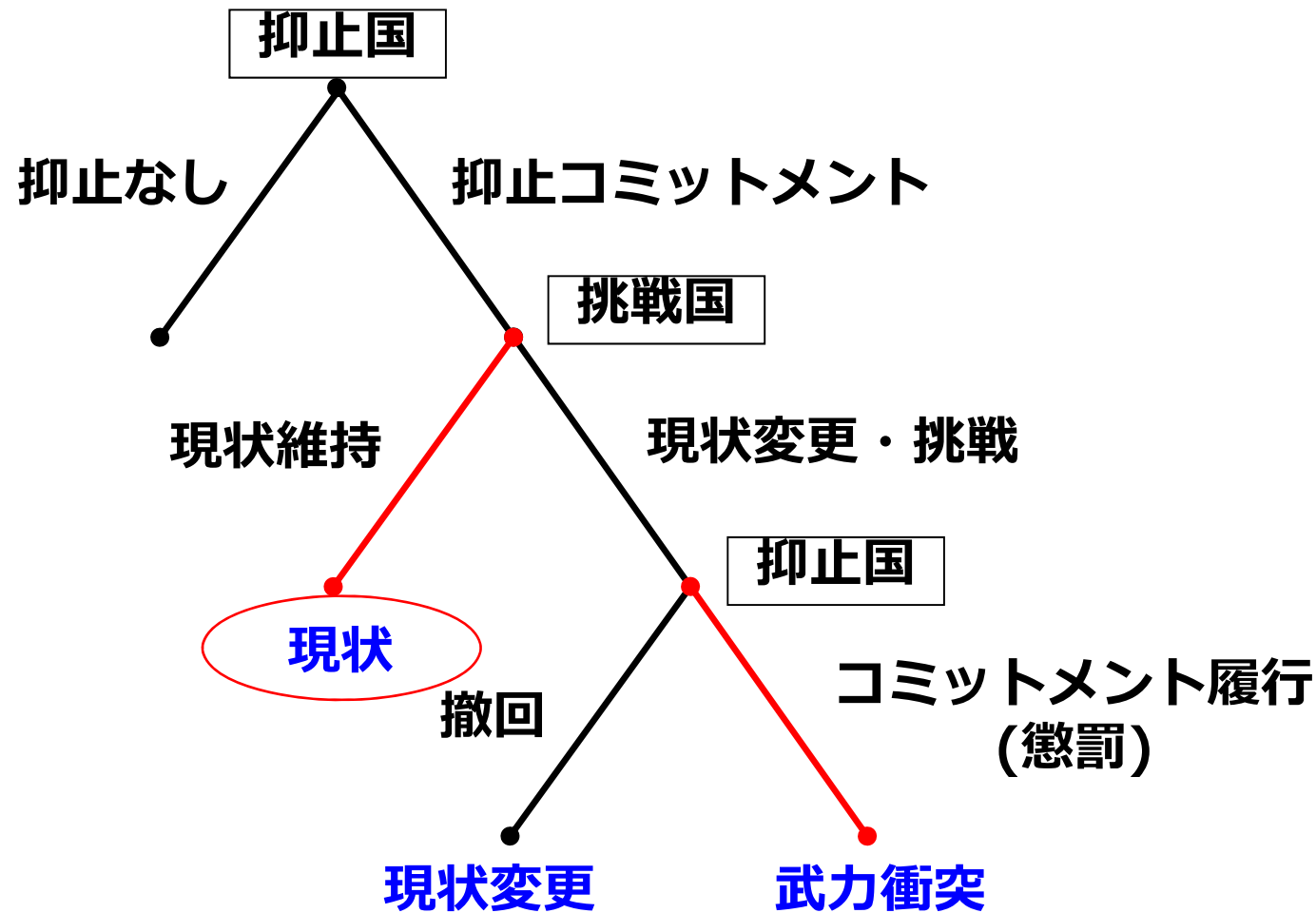
# 軍事力の潜在的行使： 強制外交

強制外交 = 抑止 (deterrence) + 強要 (compellence)

- 紛争を戦争未然にて解決する手段・方策
- 外交は一般的に 交渉 (bargaining)
- 強制外交は 力による交渉 (coercive bargaining)
  - 武力を用いた交渉
  - The power to hurt は 交渉力の源泉の一つ

強制外交とは、軍事力を（潜在的に）使うことで、外交目標を達成しようとする施策であり、その道具

# 抑止による安全保障



# 抑止の類型

		脅威の類型（戦略的環境）	
		差し迫った武力行使	潜在的な武力行使
脅威の 対象	抑止国	<b>直接緊急抑止</b> (ソ連のフィンランド侵攻 1940)	<b>直接一般抑止</b> (中ソ国境紛争 1970)
	第三国	<b>拡大緊急抑止</b> (朝鮮戦争への米国の介入に 対する中国の警告 1950)	<b>拡大一般抑止</b> (朝鮮戦争後の在韓米軍)

出典: Paul Huth, 1988. *Extended Deterrence and the Prevention of War*, p. 17.

# 抑止の種類

## 直接抑止

- 自国(抑止国)本土に対する直接攻撃を予防
- 本質的に信頼性は確保
- 軍は常に本土防衛を行う(という予測)

## 拡大抑止

- 抑止国が第三国に抑止を提供・拡張
- 第三国に対する武力行使・軍事的挑発を予防
- 本質的に信頼性は低い(国益の拡張?)

# 抑止の類型

## 一般抑止

- 武力行使・武力による威嚇が明確でも差し迫ってもいない
- 潜在的敵対関係は継続
  - 成功: 潜在的挑戦国による現状変更を求める軍事的威嚇や事態のエスカレーションを防ぐ
  - 失敗: 国際危機の発生・軍事的緊張の顕在化

## 緊急抑止

- 挑戦国による武力行使が差し迫っている状況
- 一般抑止が崩れ、軍事的緊張が高まっている
  - 成功: 挑戦国による武力行使を阻止
  - 失敗: 武力衝突

# 国際政治学

講義12-2

抑止と安全保障  
～抑止の作動条件～

早稲田大学

政治経済学術院

栗崎周平

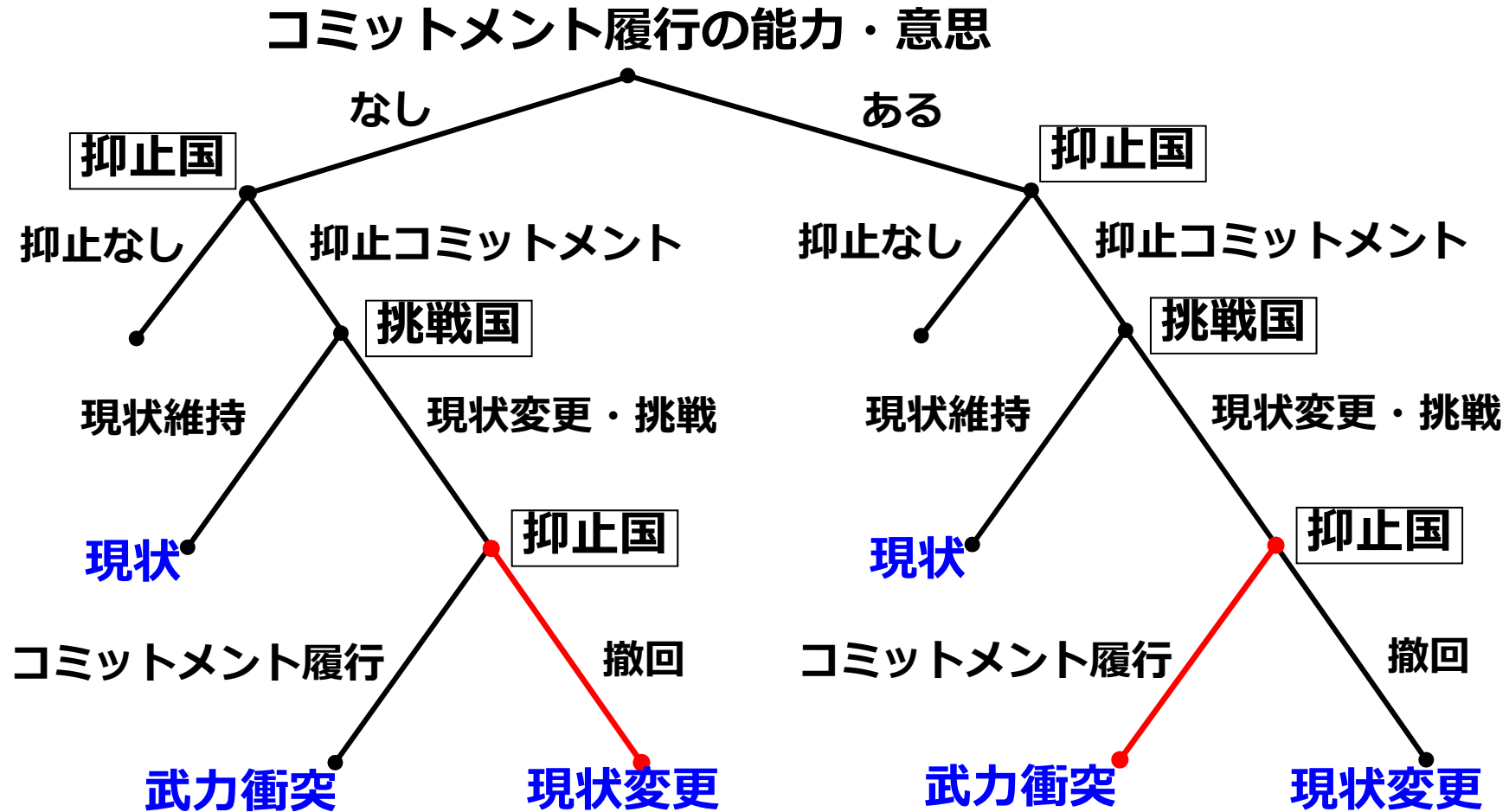
# 抑止の条件

## 【抑止成功の鍵 ⇒ 挑戦国の期待】

挑戦国が、抑止国の要求に従わずに「挑発」を選択したとき、抑止国が実際に抑止コミットメントを「履行」し、挑戦国を懲罰すると期待するか否か

コミットメントの 信憑性	
ある	抑止国は「履行」を選択すると挑戦国が信じる
ない	抑止国は「撤回」を選択すると挑戦国が信じる

## 抑止の条件





# 抑止の条件

【問】 コミットメント信憑性を確立するにはどうすればよいか？

【答】 抑止コミットメントの差別化をすればよい

# 抑止の条件

【問】 コミットメント信憑性を確立するにはどうすればよいか？

【答】 抑止コミットメントの差別化をすればよい

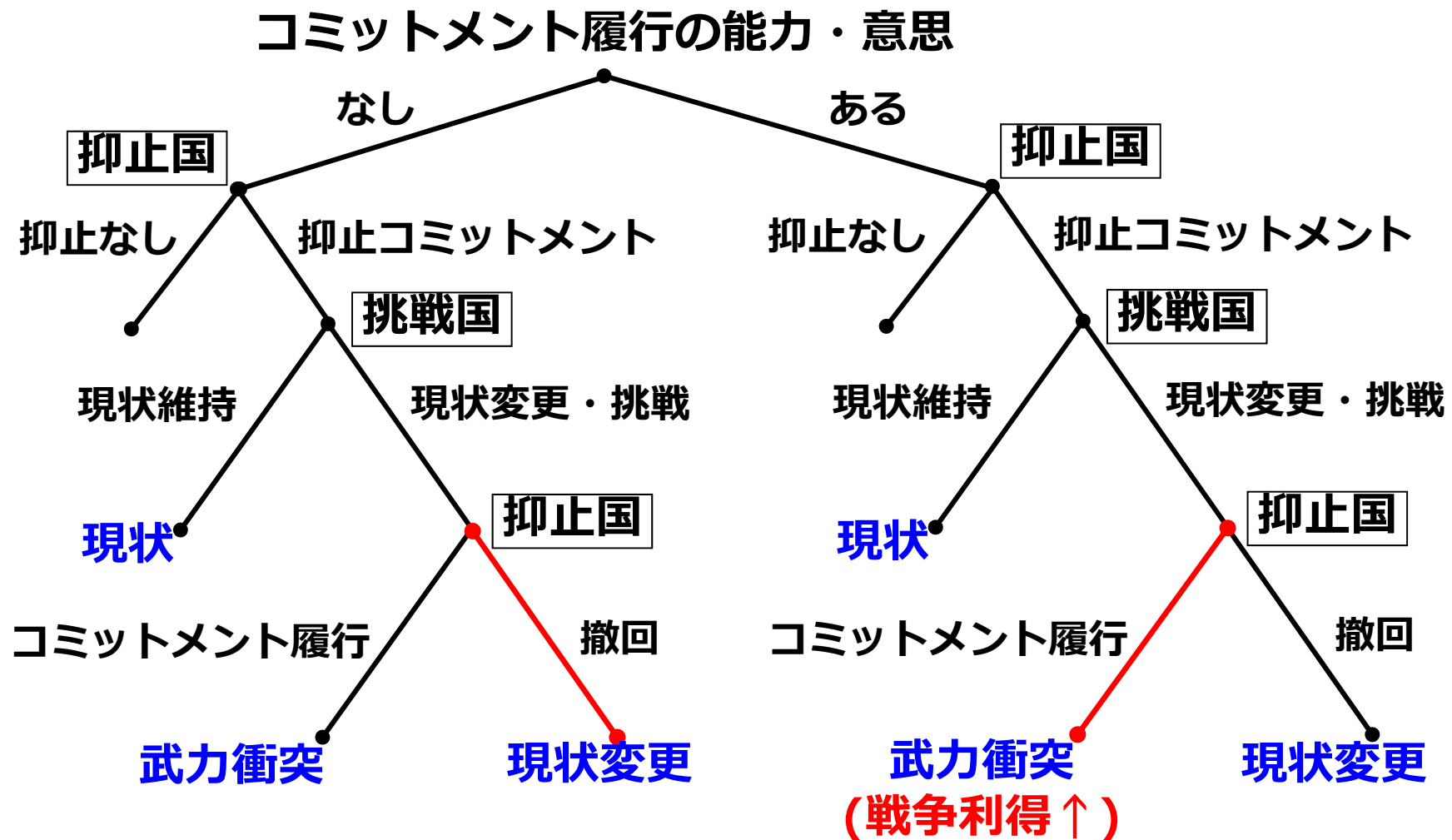
【問】 抑止コミットメントをどのように差別化すればよい？

【答】 抑止コミットメントを履行する能力と意思のある国家のみ  
が取れる行動

⇒ 信憑性の工学

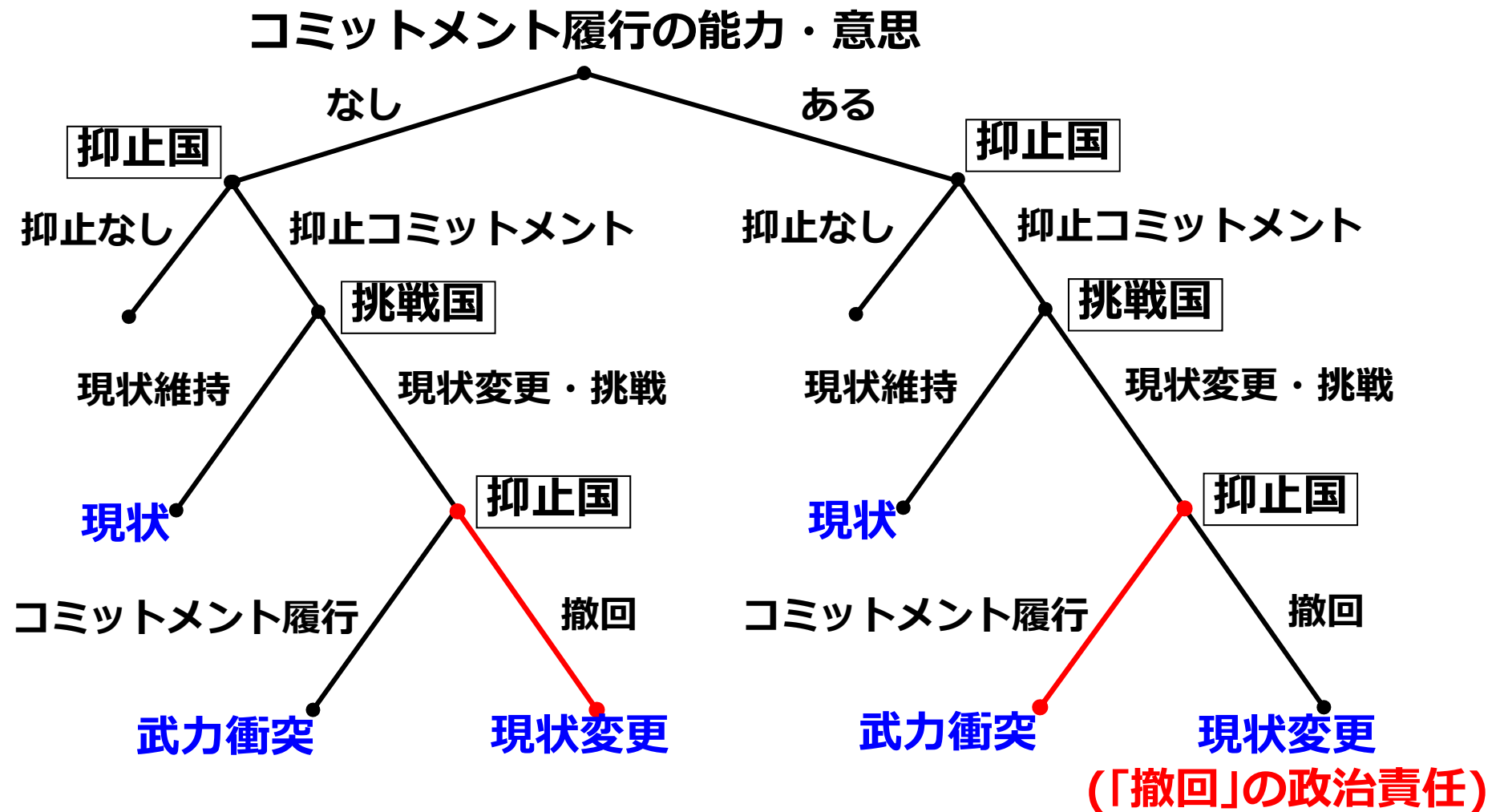
# コミットメント信憑性の工学

## 軍備増強による戦争利得の向上



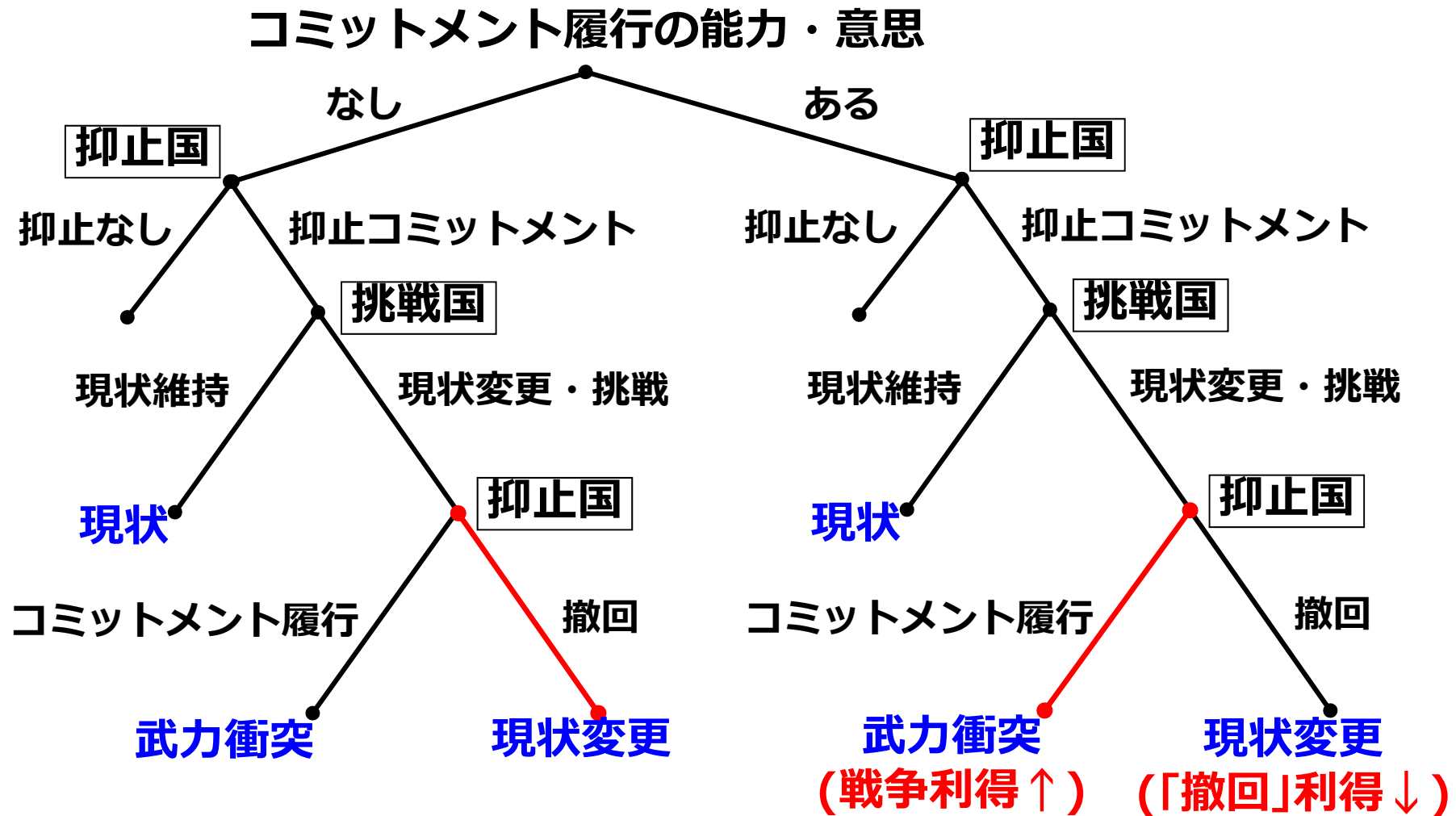
# コミットメント信憑性の工学

武力行使への政治的意思を顕示(国内政治化)



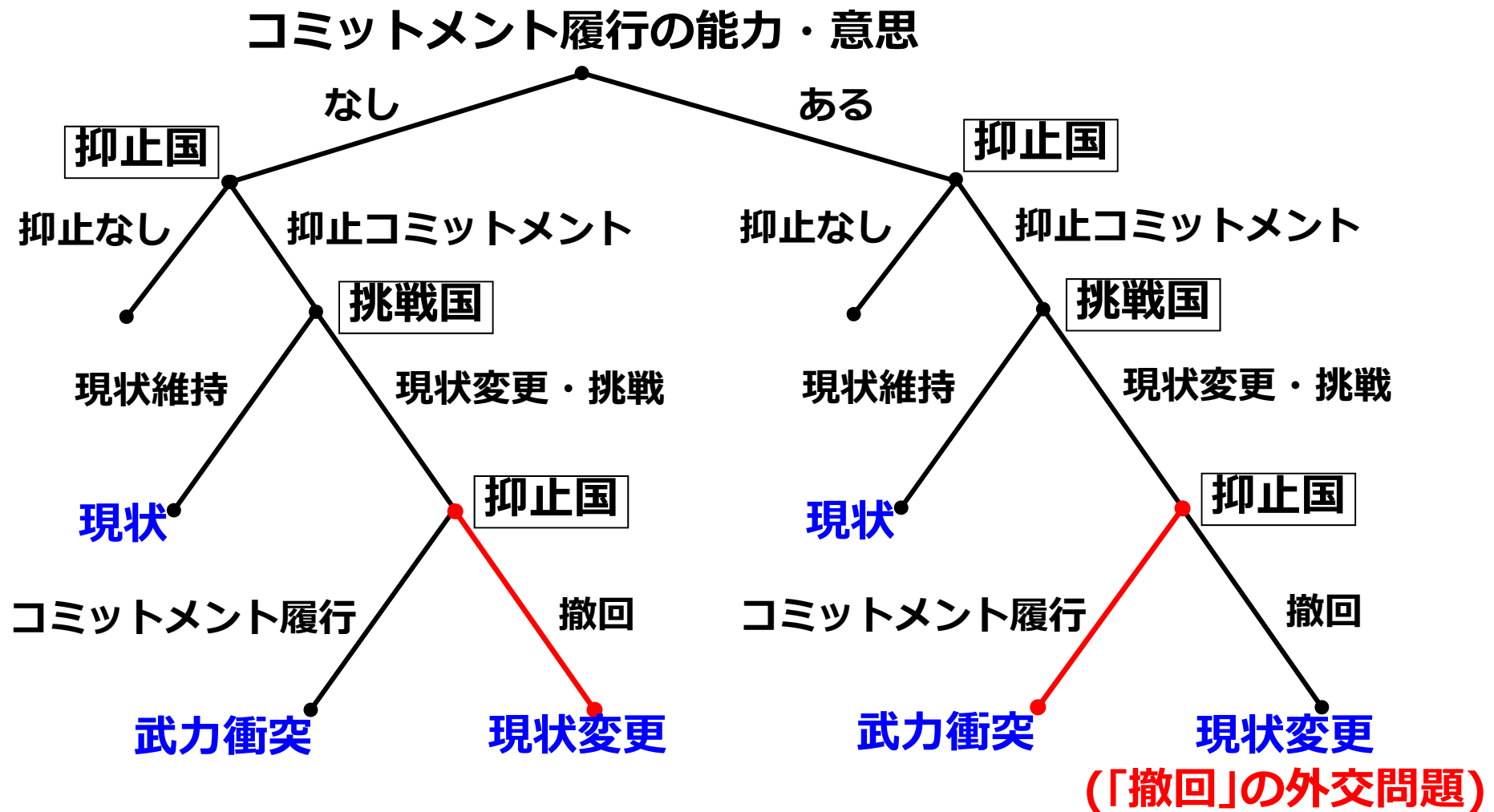
# コミットメント信憑性の工学

## 利害関係の大きさを顕示



# コミットメント信憑性の工学

将来の信憑性を俎上に載せる



# 国際政治学

講義12-3

抑止と安全保障

～拡大抑止の実証研究～

早稲田大学

政治経済学術院

栗崎周平

# 拡大緊急抑止の実証分析

## 国際危機における拡大抑止の成否を決める要因の分析

- 国際政治研究における統計分析の蓄積
- 一貫した結果が確立
  - ⇒ 抑止政策・同盟政策に反映
- 拡大抑止に寄与しうる要因
  - 軍事バランス
    - 通常兵力
    - 核兵器
  - 抑止国⇔第三国の利害関係
  - 将来の信憑性



# 軍事バランスの拡大抑止に対する効果

## ロジック

### 拡大緊急抑止の作動条件

- 有事の際に、(1)迅速に(2)低コストで(3)確実に攻撃目的を達成する見込みが低いと挑戦国が判断
- 武力衝突は長期にわたる高コストな戦争を招くと挑戦国が判断

### 拡大緊急抑止の成功の要件

- 多様な事態に即応できる、軍事力を抑止国・第三国が保持
- 前方展開・緊急展開が可能な兵力の優位性
- 緊急抑止の目的は、軍事作戦の開始時点(一両日)か初期(数週間から数か月)に、挑戦国の軍事目標達成を阻止

# 軍事バランスの拡大抑止に対する効果

仮説：拡大緊急抑止へ要因

## 緊急軍事バランス

- 抑止国の介入以前における、第三国単独の緊急展開部隊が、挑戦国と交戦する際の軍事能力のバランス

## 短期軍事バランス

- 抑止国の介入後に、抑止国と第三国の戦闘部隊が共同で、挑戦国と交戦する際の軍事能力のバランス

## 長期軍事バランス

- 武力衝突が長期化し、抑止国・第三国 vs 挑戦国の総力戦における軍事能力バランス

# 軍事バランスの拡大抑止に対する効果

## 要因の測定・操作化

### 緊急軍事バランス

- 武力衝突の初期段階で戦場へ緊急展開できる、第三国と挑戦国の部隊数の比率
- 武力衝突地点での駐留か、前方配置からの緊急展開が必要

### 短期軍事バランス

- 緊急軍事バランスを強化・補強する抑止国と第三国の能力
- 常備軍(特に陸軍と空軍)および予備将校の動員能力

### 長期軍事バランス

- 国家として長期的な戦争を遂行する能力
- 国力の総合指標(人口・工業力・軍事費・軍事要員)

# 利害関係と拡大抑止

## ロジック

- 軍事介入のコストに見合うだけの利害関係はあるのか？
- 武力行使する政治的意思 (Resolve) には大きな利害関係が推定される

## 仮説

(1) 政治的(2)軍事的(3)経済的利害関係はそれぞれに拡大緊急抑止の成功に寄与する

- 政治的利害： 抑止国  $\Leftrightarrow$  第三国の軍事同盟(安保条約)
- 軍事的利害： 抑止国  $\Rightarrow$  第三国の軍事援助
- 経済的利害： 抑止国の輸出入額に占める第三国の割合

## 測定・変数

上記(2)と(3)の指標について過去3年間の総量を計算

# 将来の信憑性と拡大抑止

## ロジック

- 抑止国が武力介入への前評判が高ければ抑止に寄与

## 仮説・測定

- 直近の武力対立・軍事危機における軍事介入・援助の成否が影響

## 測定・変数

- 直近の武力紛争における、武力介入の有無と、その帰結をコード化

# 拡大緊急抑止の分析結果

- |                  |           |
|------------------|-----------|
| • 緊急軍事バランス:      | 統計的有意・大きい |
| • 短期軍事バランス:      | 統計的有意・大きい |
| • 長期軍事バランス:      | 統計的有意でない  |
| • 核兵器バランス:       | 統計的有意でない  |
| • 軍事同盟条約(政治的利害): | 統計的有意でない  |
| • 軍事援助(軍事的利害):   | 統計的有意でない  |
| • 輸出入額(経済的利害):   | 統計的有意でない  |
| • 過去の危機・紛争行動:    | 統計的有意でない  |

# 拡大緊急抑止の分析結果

• 緊急軍事バランス:	統計的有意・大きい
• 短期軍事バランス:	統計的有意・大きい
• 長期軍事バランス:	統計的有意でない
• 核兵器バランス:	統計的有意でない
• 軍事同盟条約(政治的利害):	統計的有意でない
• 軍事援助(軍事的利害):	統計的有意でない
• 輸出入額(経済的利害):	統計的有意でない
• 過去の危機・紛争行動:	統計的有意でない

## インプリケーション:

抑止政策としての日米同盟・米軍沖縄駐留における「緊急展開部隊(=海兵隊)」の重要性の根拠

# 国際政治学

講義12-4

抑止と安全保障  
～核革命と核抑止～

早稲田大学

政治経済学術院

栗崎周平



# 核抑止と通常抑止の違い

- (通常)抑止は、コミットメント履行(＝武力行使)の信憑性が必要条件
- 核抑止は、コミットメント履行(＝核兵器使用)の信憑性が欠如

# 核兵器の運用

## 第一撃(先制使用)

- 相手国の軍事力、とくに核兵器による反撃能力を低
- 軍事能力・反撃能力などを標的(Counterforce)
- 大陸間弾道ミサイル(InterContinental Ballistic Missiles)

## 第二撃(報復使用)

- 第一撃を回避し反撃(懲罰)力を確保 ⇒ 抑止を発揮
- 都市や市民などを標的(Countervalue)
- 戦略爆撃機(B-52 など)や潜水艦発射弾道ミサイル  
(Submarine-Launched Ballistic Missiles)
- 結果として双方が、核攻撃に対して脆弱となる

# 核革命 (Nuclear Revolution)

## 核兵器の登場 ⇒ 従来の軍事力の論理の破綻

- 現代の核兵器： ヒロシマ原爆の100倍の火力
- 水素爆弾： WWIIで使用された全火薬量の20倍
- 核兵器は国家の消滅が可能

## 核兵器は従来の軍事力＝政治目的の関係性を変化

- 核兵器の破壊力はその合理的な使用を無効化
- 核兵器は如何なる政治目標を達成するのか？
- 第二撃能力を前提にすると、核攻撃を伴う戦争に「勝つ」ことはありえない： **Military victory ≠ Political victory**
- 核兵器使用の非合理性合理的 ⇒ 威嚇の信憑性？

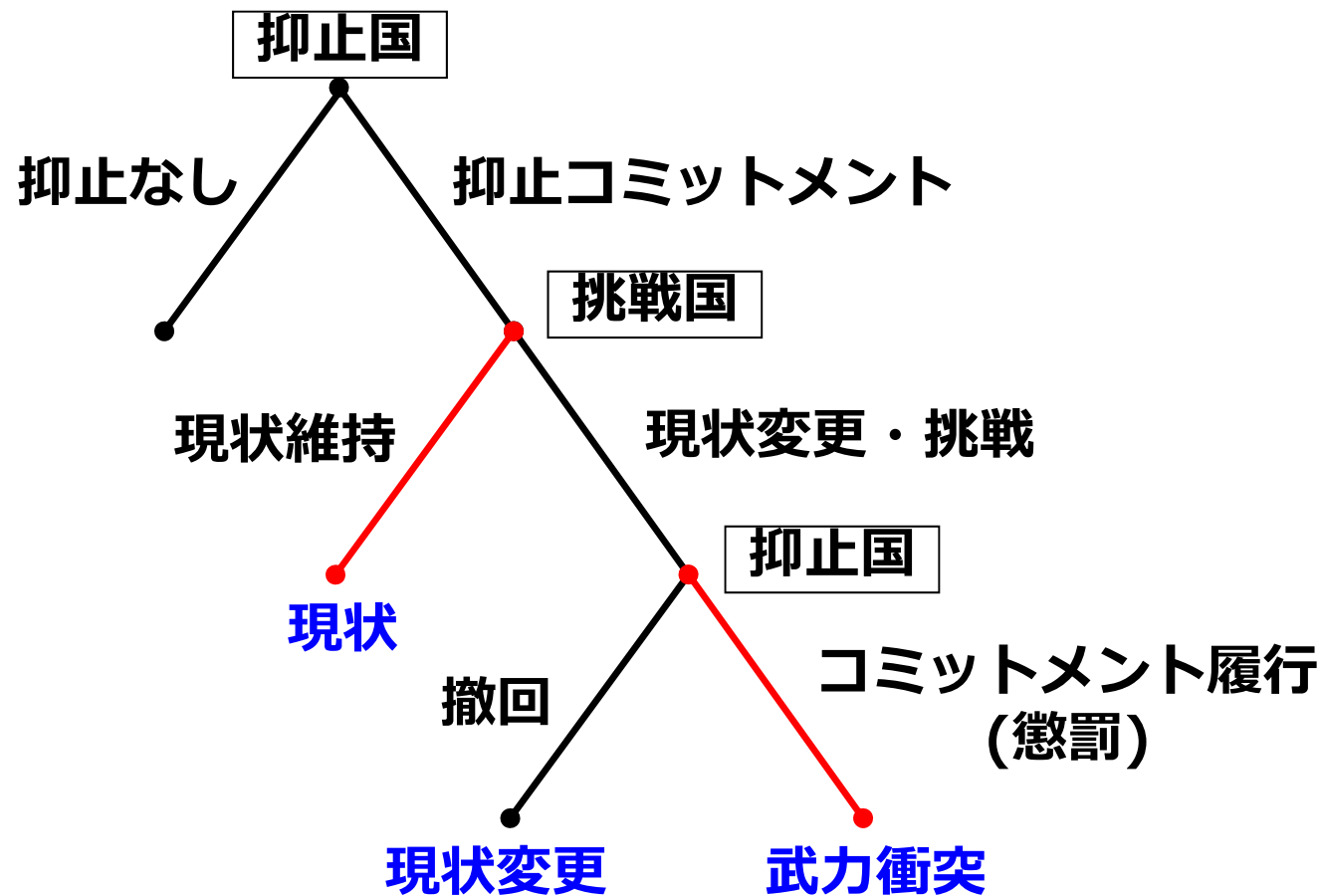
# 核革命がもたらす問題

- 通常抑止におけるコミットメント信憑性の条件
  - 抑止コミットメントを履行する能力・政治的意思
- 核抑止における核攻撃というコミットメントは非現実的(?)
  - 信憑性問題における能力はもはや問題に非ず
  - 問題は政治的意思の有無

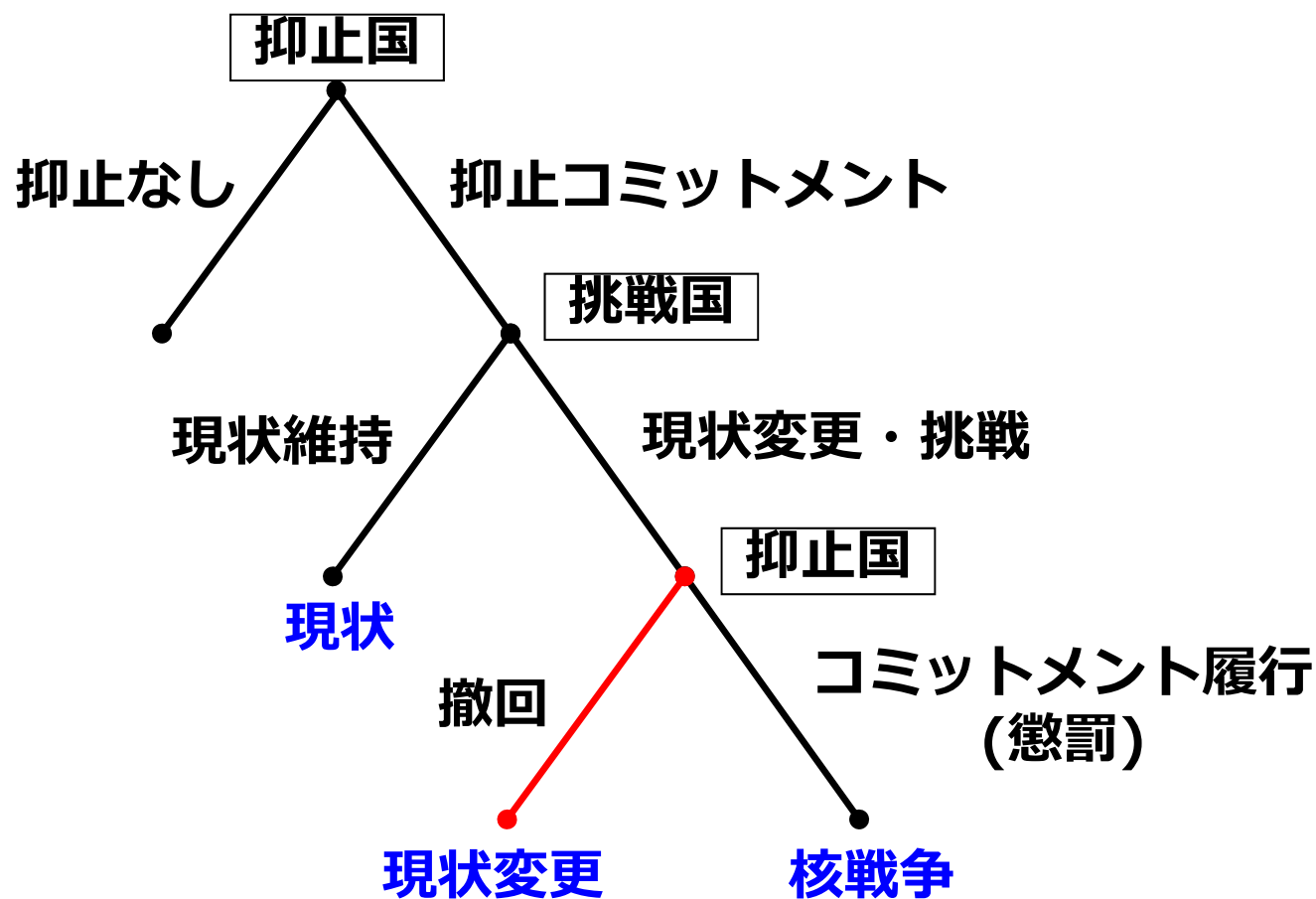
## 核革命のパズル

- 核使用の非合理性
- 大き過ぎる威嚇をどう飼い馴らす？
- 本質的に信憑性のない核抑止は如何にして可能か？

# 核革命がもたらす問題: 通常抑止



# 核革命がもたらす問題: 核抑止



# 国際政治学

## 講義12-5 抑止と安全保障 ～核抑止戦略～

早稲田大学  
政治経済学術院  
栗崎周平

# 米国の核戦略の変遷

- 大量報復戦略(ジョン・ダラス、50年代)
- 柔軟反応戦略(M. テイラー、60年代)
- 相互確証破壊戦略(R.マクナマラ、60年代)
- 相殺戦略(カーター政権、80年代)



# 米国の核戦略の変遷

- 大量報復戦略(ジョン・ダラス、50年代)
- 柔軟反応戦略(M. テイラー、60年代)
- 相互確証破壊戦略(R.マクナマラ、60年代)
- 相殺戦略(カーター政権、80年代)

# 核戦略の変遷: 大量報復戦略

- ジョン・ダラス (John F. Dulles) 国防長官、1954年
- 米国とその権益に対する攻撃・侵害の抑止を目的

## 【抑止戦略】

小さな限定攻撃であっても、核兵器を用いた全面的な報復攻撃を大量に行う

- 地域・局地紛争に対して、ソ連や中国に即座に核攻撃を行う
  - 攻撃対象として民間標的を排除せず (countervalue)
- 有効性が疑問視される
    - 相手に第一撃で軍事目標を先制攻撃する誘因を付与
    - ソ連の第二撃能力による報復を想定すると信憑性に疑問

# 核戦略の変遷: 柔軟反応戦略

- マックスウェル・テイラー統合参謀本部議長提唱
- ジョン・ケネディ大統領が主唱(1961年)
- 大量報復戦略の欠陥を克服
  - 信憑性の欠如
  - 相手国の先制攻撃の誘因

## 【抑止戦略】

小さな限定攻撃から大規模戦争まで、各局面に合わせて、柔軟に適切な規模で、適切な標的に対して正確に迅速に反撃を行うことで信憑性を確保する試み

# 核戦略の変遷：相互確証破壊戦略

- ロバート・マクナマラ (Robert McNamara) 国防長官、1965年
- Mutual Assured Destruction (MAD)
- 双方の第二撃能力を前提

## 【抑止戦略】

相手国からの核攻撃に対して、迅速に確実に（自動的に）第二撃能力による報復を行い、その結果、双方ともに受け入れがたい甚大な全面的な損害を与える（国家の事実上の消滅）

- それまでの核戦略の欠陥を克服
  - － 先制攻撃への誘因を打ち消す（大量報復戦略）
  - － 双方の被害の最大化を確保（大量報復・柔軟戦略）
  - － 攻撃対象として民間標的を排除せず（柔軟戦略）
  - － ナッシュ均衡（大量報復・柔軟戦略）



# 核戦略の変遷: 相殺戦略

- ハロルド・ブラウン 国防長官(カーター政権)提唱、1980年
- 相互確証破壊戦略 (MAD) の修正
  - 攻撃対象として民間標的を排除

**抑止戦略**: 相手国からの核攻撃に対する懲罰的報復攻撃においては、民間標的への攻撃を主目的とせず、相手国政府中枢の攻撃を最優先し、次いで軍事目標を攻撃することで、相手国の降伏を期待する

# 核戦略の問題

## 相互確証破壊 (MAD)の論理を考える

トーマス・シェリングのノーベル賞レクチャー  
「驚きの60年:ヒロシマの遺産 “*An Astonishing Sixty Years: The Legacy of Hiroshima*”」

核抑止における核攻撃というコミットメントは非現実的(?)

- 信憑性問題における能力はもはや問題に非ず
- 問題は政治的意思の有無

### 核革命のパズル

- 核使用の非合理性
- 大き過ぎる威嚇をどう飼い馴らす？
- 本質的に 信憑性の欠如する核抑止は如何にして可能か？

# 国際政治学

講義12-6

抑止と安全保障  
～核抑止のトリック～

早稲田大学

政治経済学術院

栗崎周平



# 瀬戸際外交としての核抑止

## 瀬戸際外交 = リスク戦略

- ・争点を限界(奈落の淵)まで持ち出し、相手に譲歩を迫る

## 核戦争に対するリスクを共有(相互確証破壊)

- ・最悪の帰結(抑止の失敗と核戦争勃発)は、全当事者にとって、耐え難い甚大な被害をもたらすべき
- ・ゆえに、全当事者が、核戦争を回避する誘因を持つ

## 核戦争勃発の確実性

- ・抑止の失敗により、核戦争が確実に起こることが必要
- ・しかし、核戦争に訴える威嚇は、本質的に信憑性がない

# パズルの解としての「戦略的非合理性」

## 非合理性の戦略的優位性を利用

- 相手国のコミットメントを理解不能
- 核戦争の被害に対する免疫

## ニクソンによる試み (Madman Theory)

- 「ニクソンが精神的に狂った」と思わせる
- 核攻撃の威嚇により、ソ連から譲歩を引き出す作戦

## スタンリー・キューブリック「博士の異常な愛情」

- コミュニケーションの遮断
- 自動化された最終兵器 (= 核反撃)

# パズルの解としての「戦略的非合理性」

統合参謀本部による核攻撃の即応態勢テスト (1969年10月)  
(Joint Chiefs of Staff Readiness Test)

- ベトナム戦争の早期終結を目的
- 北ベトナムをパリ和平交渉へ
- ソ連に対する秘密裏の核攻撃の威嚇
- 実際の核攻撃を意図せず
- 秘密裏の作戦のため、米国市民から隠匿
  - DEFCON(戦争準備態勢)を引き上げず
  - 予備将校を招集せず
  - ソ連の諜報機関により「信憑性がない」と判断

# パズルの解としての「偶然に委ねる威嚇」

(Threat that leaves something to chance)

## 核戦争の確実性を覆す戦略

- 相互確証破壊を前提とした核攻撃の威嚇は不可能
- 「核攻撃コミットメント」の信憑性という問題をすり替える

## リスクの威嚇

- 相互確証破壊を確実ではなく、単なる可能性とする
- 「核戦争を起こす」ことを威嚇するのではなく、「核戦争のリスクを高める」という威嚇を、瀬戸際外交で行う

## エスカレーション制御を不能とするような行動を取る

- 核戦争のリスク向上の威嚇は信憑性がありうる
- 不確実性は、「核戦争の威嚇」を細分化する作用

# パズルの解としての「偶然に委ねる威嚇」

(Threat that leaves something to chance)

## リスクの操作戦略

- 核武装・軍事力自体はリスク戦略の信憑性とは無関係
- リスクを高める能力(政治的意思)が信憑性の源泉

## 神経戦 War of nerves

- 瀬戸際外交: 相手国を核戦争の寸前まで誘導し譲歩を迫る
- リスクを取りに行く競争
- 相互確証破壊のリスクを取りに行く政治意思を伝達する戦略

# 核戦略の危険性

## 恐怖の均衡 Balance of Terror

- 核戦略は非常に危険な戦略
- 危険だからこそ核戦略は機能する
- リスクの創出が核兵器・核抑止戦略の本質
- 核戦略は、自律的・自動的にリスクを創出する機構

## 核抑止・核戦略の大前提としての合理性

- 瀬戸際外交の合理性 = コストに対する敏感性
- 合理的なアクターは、最悪の事態を自発的には選択しない
- しかし、「瀬戸際」では、恐怖・制御不能による偶発の危険

# 国際政治学

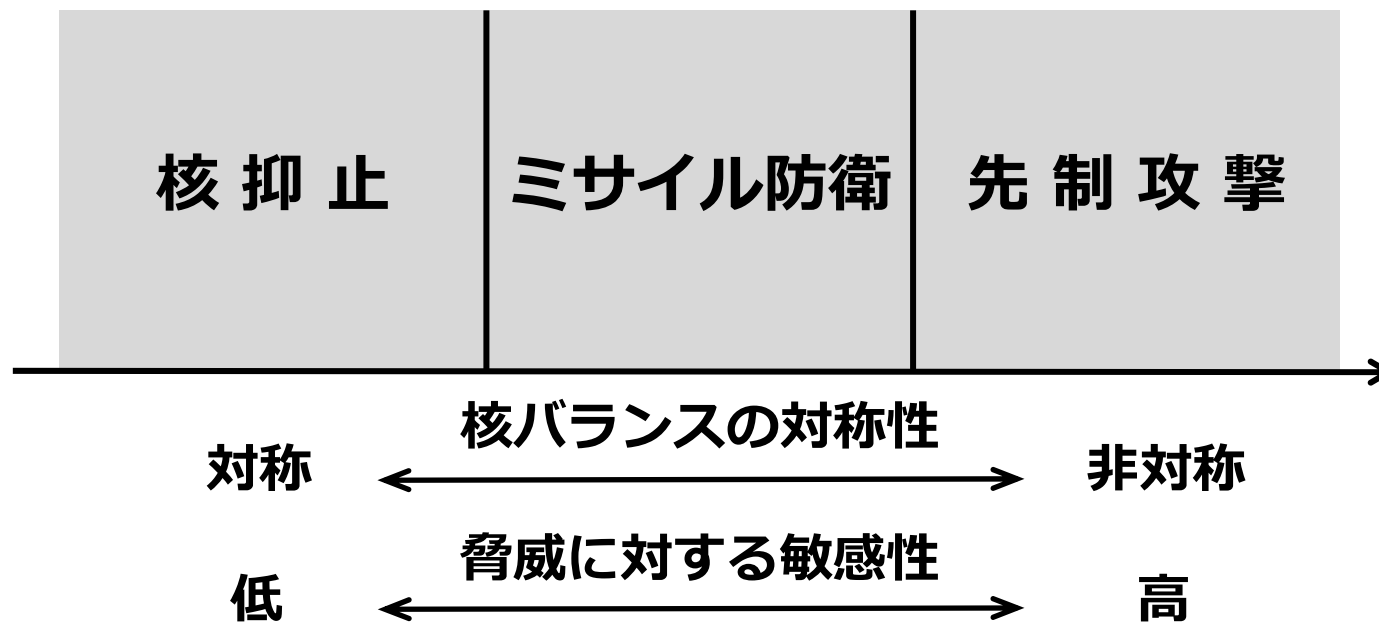
## 講義12-7 抑止と安全保障 ～ミサイル防衛～

早稲田大学  
政治経済学術院  
栗崎周平

# ミサイル防衛戦略

## ミサイル防衛戦略の有効性

脅威のレベルが、核抑止の効かない、非対称的である場合を想定





# 核兵器不保持の安全保障

## ミサイル防衛

- 弾道ミサイル迎撃ミサイル (Anti-Ballistic Missile)
- ICBM(第一撃能力)への防御
- ABMの配備は、核戦争のリスク共有を瓦解
  - 「恐怖の均衡」の瓦解
  - 先制攻撃への誘因を生み、戦略的安定性を瓦解

## ABM制限条約(1972年)

- ABMによる核抑止の不安定化を排除
  - 互いに、第一撃に対する脆弱性を高める
  - 「恐怖の均衡」を確実なものにする
- ABM配備の制限(首都・ICBMサイロの二か所)
- 戦略核兵器のバランスを均等にする

# ミサイル防衛戦略の変遷

## 戦略防衛構想

Strategic Defense Initiative (レーガン政権、1984-1989)

## 限定的攻撃に対する地球規模の防衛構想

- ブッシュ政権 (1989-1993)による冷戦以降の対応
- 地域内の弾道ミサイルに対する小規模なミサイル攻撃に対する防衛（スカッドミサイルなど）

## TMD・NMD構想

- ビル・クリントン政権
- イラン・北朝鮮からのミサイル攻撃の脅威

## MD構想

ジョージ・W・ブッシュ政権による本土ミサイル防衛

# 日本のミサイル防衛戦略

## 北朝鮮の弾道ミサイルの脅威

- 小泉政権
- それ以前は、米国からの共同技術開発の要請にも躊躇
- 米国のMD構想(本土ミサイル防衛)を踏襲

## 3段階のミサイル防衛

早期警戒：米国の早期警戒衛星に依存した上での、自動警戒管制システム (JADGE) Japan Aerospace Defense Ground Environment

イージス艦：SM-3ミサイルによる高高度での追尾・迎撃

地上迎撃：パトリオットミサイル(PAC-3による地対空)

# 日本のミサイル防衛戦略

## 3段階のミサイル防衛

イージス艦：SM-3ミサイルによる高高度での追尾・迎撃



# 日本のミサイル防衛戦略

## 3段階のミサイル防衛

地上迎撃：パトリオットミサイル(PAC-3による地対空)



# 日本のミサイル防衛戦略

## ミサイル防衛戦略の欠点

- ・技術的に命中精度に改善の余地
- ・攻撃兵器
- ・安全保障のジレンマを惹起

